

昭和 61 年度地震災害の概要

北大工学部 太田 裕

昭和 61 年 4 月以降, 本道およびその周辺に発生した地震のうち, 多少とも被害を伴ったものあるいは話題になったものは以下の 2 地震である。

○昭和 61. 11. 13 日の沼田町付近の地震: これについては, 本報告における小特集を参照されたい。そこでは, 地震概要・活動推移・被害・行政対応等の記載がある。

○昭和 62. 1. 14 日の日高山系の地震: 発震時は同日午後 8 時 4 分頃で, 震源は日高山脈北部, 深さ 80 km, また $M=6.9$ と報告されている。気象庁発表の震度は,

V: 釧路

IV: 帯広, 苫小牧, 根室, 浦河, 広尾, 八戸, 盛岡など

III: 札幌, 函館, 小樽, 室蘭, 岩見沢, 倶知安, 森, 青森, 酒田, 宮古, 大船渡, 仙台などとなっており, 道内全域が有感域となっている。

死者はなかったものの, 帯広・釧路・苫小牧の 3 市および胆振管内穂別町で合計 7 名の負傷者を出している。ビル・家屋の倒壊などの大被害は発生しなかったが, 十勝地方の一部でビルの窓ガラスが破損し, また帯広・釧路市内の商店などで瀬戸物・陳列棚上の物品が落下, 破損するなどの被害が目立った。帯広市および十勝管内の一部では地震後 15~30 分に及ぶ停電があった。苫小牧市では, 同市の熱供給施設の配管系の折損によって暖房と給湯が 24 時間あまりストップした。浦河町堺町では 70 戸あまりが断水した。

他方, 鉄道・道路等にはさしたる被害は無かったものの, 国鉄道総局は全 26 線区のうち 15 線区について点検のために一時運転をとりやめた。道路は, 道央・札幌両自動車道で速度制限が行われ, また十勝管内で一部小雪崩が発生し, これに伴う一時通行止めが実施された。

道庁防災消防課による被害状況総括の結果は以下の通りである。

被害種別	内 容
人的被害	重傷 3 人、軽傷 4 人、計 7 人
住家被害	一部破損 1 棟 (10 世帯)、被害額 250
非住家被害	一部破損 15 棟、被害額 6,589
農業被害	田 0.5ha、農業施設 42ヶ所、家畜 1 頭、被害額 1,322,500
林業被害	民有林 1ヶ所、被害額 2,200

衛生施設被害	水道8ヶ所、病院2ヶ所、ごみ処理施設1ヶ所、その他1件、被害額 3,099
商工被害	商業243件、工業3件、被害額 24,896
文教被害	小学校1、中学校2、社会教育施設15ヶ所、被害額 10,997
社会福祉施設被害	公立5ヶ所、被害額 1,948
その他被害	5件、被害額 138

(但し、単位：1,000円)

この地震に対する被災現地の詳しい調査は行われていないが、1982年浦河沖地震の場合と同様に道内全域(212市町村)においてアンケートによる震度の高密度調査が進められている(北大工建築耐震工学研究室)。また、釧路(震度=V)・帯広(震度=IV)が被害発生の実情とは一致しないという問題が提起されており、これに応えるべく帯広市を対象に詳しい震度分布調査が実施されている(帯広畜産大学)。